

「……ご主人様……?」  
随分と急……ですねっ♡♡」

「……アカネが望んでいたからな  
だったらお望み通り  
やってあげなきゃだろ? (笑)」

「……はい♡♡」

(流石はご主人様♡♡  
そんな素振りをしてい  
なかつたのに……  
私の心の奥の望みを……  
見つけてしまっ  
てすもの♡♡)

ぽんっ!!  
ぽんっ!!  
ぽんっ!!



「嫌なら  
やめようか? (笑)」

「…そんなじわる  
言わないでください  
ご主人様♡♡」

「ご主人様のお世話を  
しなきゃいけないはずなのに…♡♡  
こんなスケベなアカネのまんこにたくっぷりと  
お仕置きしてください♡♡」

おんっ!!

おんっ!!

おんっ!!



「わかったわかった  
それじゃあアカネには  
新しい役目を刻みつけて  
やるからな」

(新しい役目…?)

「一体なんでしょう?♡♡♡」

「…っ!♡おっ♡」

「ご主人様…そこっ♡」

「ここが弱いのか  
それじゃあ、じっくり  
せめてやるからな(笑)」

ほんっ!!

ほんっ!!

ほんっ!!



「ご主人様…♡♡♡」

「ん？」

「そんなに弱点突かれたら…  
私…ダメになっちゃう  
ますっ♡♡♡」

「そうか…  
それなら」

ぽんっ!!

♡ぽんっ!!

♡ぽんっ!!



「もつとダメに  
してやるからな(笑)」

「んひいつ♡♡♡」

「ちんこ無しじゃ  
耐えられない  
俺専用の便女メイドに  
してやるからなっ」

「ちんこ無しじゃ  
耐えられない  
俺専用の便女メイドに  
してやるからなっ」

「ご主人様…それが…私の  
新しい役目…ですね?♡」

「私をチン堕ちさせる気です?♡」

「でもご主人様が喜んで  
くださるなら…拒めませんね♡♡♡」

「ほら、いぐぞ」





ゼクッ!!

「おおおおおおおっっっ!!!♡♡♡

ほびゅるる!!

「おおおおおおおっっっ!!!♡♡♡



「おおおおお~~~~♡♡♡」

ひゅん~~~~♡♡

「ご主人様のおつあつザーメン  
しつかり注がれてます…っ♡♡♡」

「あく射精る  
アカネのとろとろまんこに  
がっつり射精してる…!!」

イク♡

イク♡

「アカネはこれから俺の便女メイドだからな？わかったか？」

「…はい♡♡♡」

「ご主人様専用の便女メイドとして常にご主人様喜んで頂けるよう…精進します♡♡♡」

「ご主人様の射精で…」

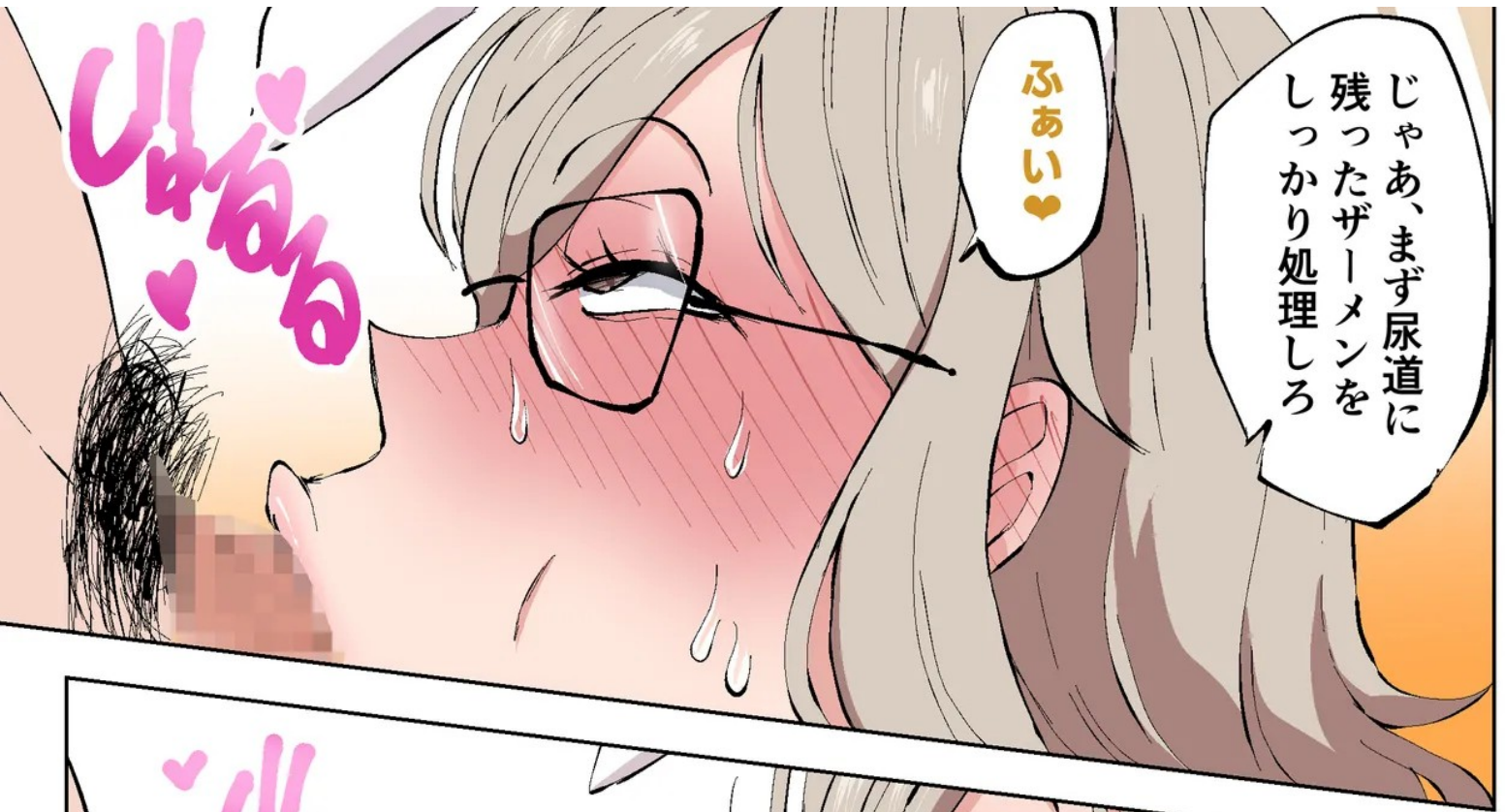
私のまんこ脳に…しつかりと

便女メイドとしての資格を…

焼き付けてもらっちゃいました♡♡♡

んん♡

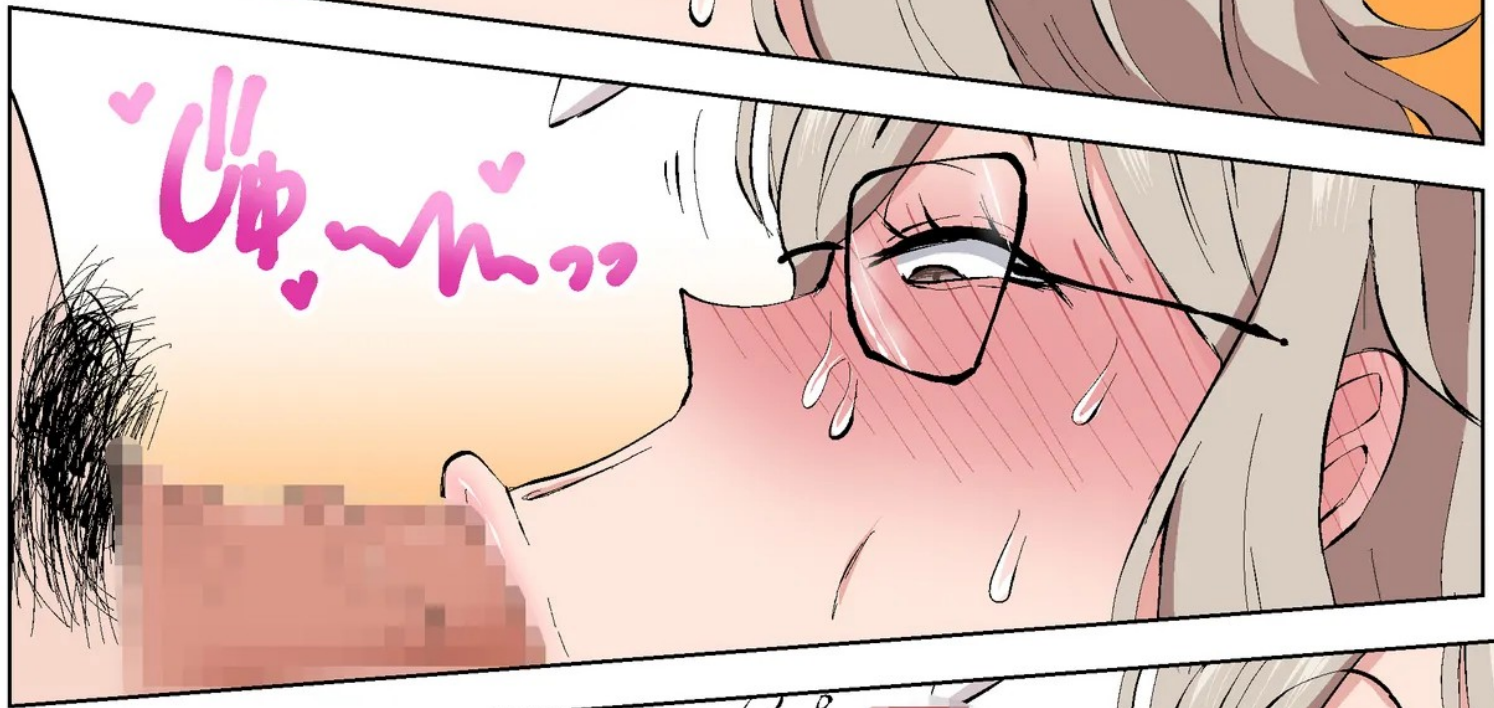




ふあい♡

じゃあ、まず尿道に  
残ったザーメンを  
しっかり処理しろ

しゅん♡  
しゅん♡  
しゅん♡



♡しゅん♡  
♡しゅん♡  
♡しゅん♡



しゅん♡  
しゅん♡  
しゅん♡

お、綺麗に  
吸い取ったな

ありがとうございます♡  
♡いぎいます♡

